



二中だより

さとく うつくしく たくましく

天童市立第二中学校だより 第16号 令和8年2月16日 文責：校長 五十嵐由美子

～働く人に学ぶ～

I 学年職業講話

2月9日(月)に、天童西ロータリークラブの10名の方々を講師にお迎えし、1学年の進路学習である「進路講話～働く人に学ぶ～」が行われました。10グループに分かれ、異なる業種のお二人からお話を伺い、質問に答えていただいたり、感想を共有したりしました。働くこと・生きることについて視野を広げ、考えを深めました。



全体会で、西ロータリークラブ会長の神村さんのご挨拶の中に、慶応義塾大学の創設者で1万円札の肖像でもある福沢諭吉が書いた「学問のすずめ」の中にある有名な言葉、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと言えり」についてお話がありました。「人間は、みな平等に生まれてくる」には続きがあって、諭吉さんはこう言っています。「人間はみな平等に生まれてくる。でもそれはスタート地点だけ。世の中を見渡してみなさい。賢い人と、ちょっと残念な人がいる。偉い立場の人もいれば、その逆の人がいる。その差はいったいどこからくるんだい？」諭吉さんの答えはシンプルです。「それは、勉強したか、しなかったか。ただそれだけの違いなのです。」



日々学ぶということ、そして、生涯学び続けることが大切です。

9年間のおいしい思い出

卒業お祝い弁当

3年生は、あとひと月ほどで卒業を迎えます。学校生活での楽しみの一つが、給食の時間だという人もいることでしょう。小学校1年生の時から毎日食べてきた給食が食べられるのも、あと少しになりました。栄養バランスやおいしさを考えて給食を作ってくださっている給食センターの方々が、卒業を祝い新しい生活を応援する気持ちを込めて、毎年この時期に「卒業お祝い弁当」を作ってくださいます。二中の3年生は、2月5日(木)にこのお弁当をいただき、当日は、給食センターの方々もお越しください、各クラスでお話をしてくださいました。

おそらく人気ナンバーワンのメニューである、とりの唐揚げが、この日は「至高のからあげ」という名前で、いつもの倍ほどの大きさ！給食センターにお勤めされている、中学生の子どもを持つ職員の方々からの愛情あふれるメッセージカードもいただき、おなかも心も満たされました。



毎日、温かいものが温かく、冷たいものが冷たい状態で食べられるありがたさと、昨年から給食が無償になり、それは多くの方々のお陰なのだということに感謝して、「いただきます」「ごちそうさま」とあいさつしましょう。

今から15年前の2011年に東日本大震災が起こり、その翌年の2012年に、この天童二中校舎の大改修工事が行われました。現在みなさんが使っている教室のドア、床、ロッカーはこの時に新しくなり、エアコンが設置され、それまでの和式トイレは、その当時の学校には珍しいウォシュレット付きの洋式トイレに変わりました。金庫に保管されている、その当時の工事に関するたくさんの書類の中に、工事終了後の2013年2月に書かれた何通かの手紙のコピーが一緒につづられていました。

毎日校舎の工事をしてくださった方々へ生徒が送ったお礼状に対する返信を一通紹介します。

天童市立第二中学校の皆様へ

先日は、大規模改造工事に対して、大変心温まるお礼のお手紙をいただきまして、誠にありがとうございました。

自分たちは、朝から晩まで学校の内外に所かまわず出入りをして、騒音やほこりをまきちらし、皆さん、特に受験を控えた三年生の方々には、すごく迷惑をかけてしまったのではないかという思いが、現場を引き上げた今も横切ることがありました。

そんな中、お手紙をいただき、読ませてもらっているうちに涙があふれ出ていました。

私が機械設備工事を仕事にしてから、四十余年、数多くの現場を手掛けてきましたが、皆さんから感謝の言葉をいただき、今日この時ほど、こんなに感激したことは初めてです。今までの多種多様な工事現場が走馬灯のように思い浮かび、これまでの仕事の集大成にいただいた感謝状と受け止め、更に感激です。

最初に喜んでもらったのかなと感じたのは、三階が完成した時。きれいになった床、壁、天井、何よりも明るくなった教室を見て、床に大の字になり「うわあー」と言いニッコとした笑顔、エアコンを見ながら「これ冷房もできるんですか」と聞かれ、「そうだよ」と答えた時の「やったー」の笑顔、西トイレの使用開始後の「きれいー！」の一言です。皆さんの喜びを見て、聞いて、感じながら、無事完了することができました。沢山の職人さんとの心意気が報われたな！と思う瞬間でした。

でも、それ以上に迷惑をかけたのでは？という気持ちがいっつも心の片隅にうずいていましたが、このお手紙でそんな思いが瞬時に吹き飛びました。本当にありがとうございました。

みなさんの仕事に対する印象は、さまざまあると思います。我々の仕事、建築関係は、無から有を作るという仕事です。今回のような改造工事は、まず、新築工事に携わった職人さんに敬意を払い、当時の時代を偲び、建物の傷んだ所や古くなった所を解体し、より立派な建物に仕上げ、以前の新築よりも勝るとも劣らない作品に仕上げようと頑張ります。

職人もいろんな職種があります。大工さん、左官屋さん、土工さん、鉄骨屋さん、鉄筋屋さん、鳶工さん等々。それぞれの持ち場の仕事が終わったら、次の職種に引継ぎ、少しずつ形を整え、最後に命を吹き込みます。電気を、水道を、冷暖房を、使用できるようにします。

こうして、皆さんに作品を引き渡します。そして、一年でも建物が長持ちするように、今度は皆さんそれぞれが、丁寧に、より優しくいたわって、先輩が、後輩にずっと引継ぎ、何十年もお使いください。

工事期間中は様々なことがあります。辛いこと、思うように仕事が進まないこと、特に最後の一か月位は完成への産みの苦しみがついてきます。

このような時は、いつもこの言葉に勇気づけられます。「冬来たりなば 春遠からじ」ここ数日のような寒く、吹雪の日でも、これを乗り切れば暖かい春が待っているよ、施主さんに、みんなで心を込めて作った建物を引き渡しができるように頑張ろうと、再び気持ちを奮いたたせるのです。

これからは、このお手紙をお守りとし、仕事に精進したいと思います。

蛇足ですが、おじさんの独り言を聞いてください。「よく学べ、よく遊べ」人生の基本だと思います。

今日よりも、10分の1、100分の1でもいいから よい明日を迎えよう。

